



2017 年度事業報告

2017 年 4 月 3 日に一般社団法人として新しくスタート致しました。

2017 年の事業として、簡単に 2 つ上げると全国にパラマウントチャレンジカヌーを広げることと競技としてのパラカヌーを普及し強化を行う事です。

普及部 パラリンピックサポートセンター助成事業（予算：7,640,000 円） 他委託事業など

【普及事業】

霞ヶ浦パラチャ・木場潟パラチャ・静岡プールパラ・大池パラ・岐阜プールパラと地域にパラマウントチャレンジカヌーの普及を行いました。

パラチャを行うだけでなく、サポート体制の強化と安全管理の為に、作成した冊子を用いた講習会を行い障がい者への理解を進めてサポート体制を作ってきました。講習会はパラチャ事前講習会として 3 回開催し、約 50 名の方が参加してくれました。

★普及活動

講演会（小学校へ福祉教育の一環）

奈良県富雄小学校・奈良県大宮小学校・滋賀県米原小学校

講習会（製作した冊子をもとに企画の為にボランティア講習会）

静岡事前講習会、霞ヶ浦事前講習会、小松事前講習会の 3 回協会主催で実施

奈良、京都各地域実行委員会主催で実施 兵庫県竜野市事前講習会

体験会（選手発掘や室内プール体験会）

年間、関西 5 回・関東 3 回程度（合計 参加者 200 名 うち障害者 50 名）

京都パラリンピックにチャレンジ・兵庫県竜野市プール体験会・

講演会+体験会（B&G 全国研修会）

障害者カヌーについて（障害者と介助者の異なる立場の講師 2 人体制での講義）

★パラマウントチャレンジカヌーの開催

新しく主催したパラチャ

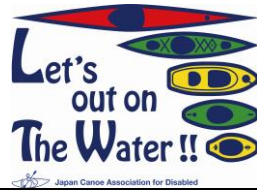
静岡プールパラ 参加者 23 名（うち障害者 6 名）身体障害

霞ヶ浦パラチャ 参加者 50 名（うち障害者 20 名）身体障害・知的障害・聴覚障害

静岡大池パラチャ 参加者 25 名（うち障害者 7 名）身体障害・視覚障害

小松パラチャ 参加者 20 名（うち障害者 6 名）身体障害・知的障害

岐阜県プールパラ 参加者 30 名（うち障害者 8 名+選手）身体障害



今期のパラチャを行う中で、今期はパラリンピックサポートセンターの助成により購入した競技艇パラカヌーカヤックを体験できる形にし、2020年東京パラリンピックに向けてパラカヌー競技の認知度の向上と選手発掘を同時に行いました。また、競技艇の体験ができるパラチャとして、だれでもチャレンジしてもらい競技を知ってもらう機会となりました。

関西の実行委員が主催するパラチャにも競技艇を持って参加し、関西のパラチャ仲間にも競技艇の体験をしてもらいパラリンピックに向けて活躍している選手の応援につながるよう取り組みました。

2018年度に向けた動きとして、山形を視察し施設の方と東北担当の方とパラチャのイメージを膨らませました。山形の会場はアプローチも設備も整っているカヌー競技場があり、その隣は最上川が流れています。

川の楽しみのパラチャと、競技としてのパラチャを融合させた素晴らしいパラチャが開催できるのではないかと考えて計画中です。

九州視察も行い、地元の協力体制を求めべく競技関係から紹介していただいた方々や、子供たちにカヌー教室を開催している若手との出会いがあり、2018年は九州進出も視野に入れて計画中です。また、2020年の鹿児島国体の会場の見学を行い設備やカヌー事情の情報収集を行いました。

【委託を受けた普及事業】

特定非営利活動法人パラリンピックキャラバンの事業の一つである奈良の吉野川で2泊3日カヌーキャンプにインストラクターを派遣し、子供たち主体の企画の手伝いをさせていただきました。

B&G財団の毎年開催の指導者研修会に講師として招かれ、80名の研修生に障がい者の理解とサポートについて講義を行ったのち、フィッシングのワークショップを行いました。会長吉田をモデルとして、沖縄の海で障害者カヌー実習を行いました。

兵庫県障がい者スポーツ協会の障がい者カヌー体験会を開催する為に、講師派遣の依頼があり近隣の会員にサポーターとして来ていただき、競技艇とレクレーションカヤックの両方を体験してもらいました。



日本パラリンピック委員会の事業としての選手発掘事業、東京都の委託事業の選手発掘事業へも近隣の会員をインストラクターとして派遣し、競技カヌーとレクリエーションカヌーを体験していただきました。

色々な形のカヌー普及活動の中で、競技に興味を持った方やカヌーに初めて乗って、また次の楽しさへと広がった方々は障がい者だけではありません。

サポーターとして関わっていただいた方々にも、カヌーを体験してもらいカヌーを知っていただく事を行いました。協会活動の基本となる、参加する方全員が同じ楽しさを共有できる時間を作ることが出来ました。

【広報事業】

広報活動の一環として、協会の新しいロゴマークを用いたグッズを寄付の返礼品として作成したくさんの方にご協力いただきました。

半袖Tシャツが2パターン、長そでのTシャツを作成しました。また、宣伝としてタオルやステッカーを作成して、体験会に参加して下さった方へ参加賞として配布する事や、別途寄付をしていただいた方へのお礼とすることで協会の理念と活動をイメージしたロゴマークが全国に拡散されました。

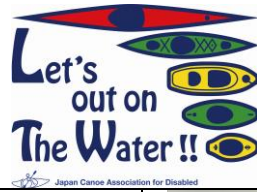
黄色の半袖Tシャツは、協会へ委託された事業に関して選出させて頂き、委任した会員へスタッフユニフォームとして配布しました。今後も継続して委託事業の協力を要請した際にはご協力をお願いします。

合計寄付金額：1,375,400円



協会冊子第1号の青版「カヌー楽しいよ、漕いでみようよ」は、企業や自治体への活動紹介冊子として配布し、活動理念を伝えることに活用しています。初版の500冊から追加で500冊を増刷してこれからも紹介冊子として活用したいと思えます。

また、レスキュー上級編として赤版を続編として作成しました。カヌーのレスキューの上級編として、これから各地で企画を行う際の参考にしていただけるような内容となっており、誰にでも通用するレスキュー体制と、カヌー行事の企画の為の注意点などを紹介しています。



Facebook ページを充実させることと、HP をリンクさせることでより多くの方々に新しい情報を公開できる体制にしました。また、競技カヌーのページも作り、選手の情報や競技部の情報も全体に発信し共有できる形にしました。

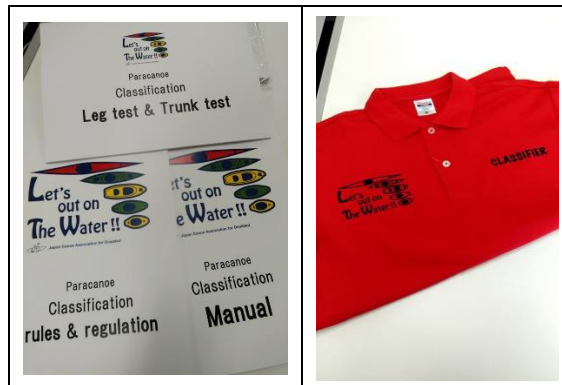
機関紙の発行も、法人化より止まっておりましたが 1 月に祝法人化とした新春号が発行され、任意団体最後の会計報告や総会の報告、新しく動き出した事務局の報告が記載されました。

報道関係にもプレスリリースを配信することで、競技パラカヌーの紹介と協会活動の紹介を取材していただきました。（3 月香川県公開合宿時）

【人材育成事業】

3 月に国内で初めての取り組みとして、記念すべき第 1 回クラス分け委員養成講習会を開催しました。広島大学病院所属のクラス分け委員長である坂光徹彦先生（メディカル）原田直己先生（テクニカル）に講師として講義いただき、実技にはモデルとして現役選手に参加してもらい 2 日間の講習会を開催しました。全国から 5 名の受講生が参加し、3 月末の海外派遣選考会でのクラス分け補助を行って全課程修了となり、地域でのクラス分け（暫定）ができる準 JCAD クラス分け委員として受講修了しました。

国際規則を翻訳した教科書を用いた本格的な講習会は、日本のカヌー界や世界のカヌー界へ向けた大きなアプローチとなり、日本障害者カヌー協会の世界へのチャレンジの大きな 1 歩となりました。





競技部 合計 31 事業 スポーツ振興センター助成 (予算：16,290,000 円)

競技部の活動も、この 1 年は新たなスタートとなりました。競技環境が厳しい中、選手としてチャレンジしたいという思いを現実にするために、協会指定選手として全員の育成に取り組みました。競技スタッフも、競技経験のある方や専門知識のある方々が集まってくださり、競技部の本格始動の 1 年となりました。

現在の指定選手は 18 名、パラリンピックに出場経験のある選手を筆頭に、自身の可能性を追求し、世界にチャレンジしたいという思いで集まりました。

【選手強化事業】全 14 事業

年間を通して 4 回の強化合宿を石川県木場潟カヌー競技場、東京都内、香川県府中湖カヌー競技場で開催しました。その中で強化会議を行い、競技普及の為の活動や選手の強化の計画や方針などを競技部全体で協議して進めてきました。

ワールドカップ事前合宿 5 月 1 日～5 月 6 日

世界選手権事前合宿 7 月 4 日～8 月 17 日

第 1 回強化合宿 8 月 10 日～12 日

第 2 回強化合宿 9 月 22 日～24 日

第 3 回強化合宿 1 月 19 日～21 日

第 4 回強化合宿 3 月 2 日～4 日 (公開合宿)



海外派遣としては、4 月はクラス分け委員長を国際的な知識を日本に広げていただくために国際クラス分けのワークショップへ派遣しました。5 月には瀬立モニカ選手を中心に日本選手団を結成してワールドカップへ派遣、8 月はチェコで開催された世界選手権へ 4 名の選手とスタッフで構成された日本選手団の派遣、11 月下旬は 4 名の選手と 4 名のスタッフの構成で日本選手団派遣とアジア大会と同時に開催されたアジアクラス分け講習会の講師としてクラス分け委員長を派遣しました。

4 月 19 日～25 日 イタリアローマ 国際クラス分けワークショップ派遣

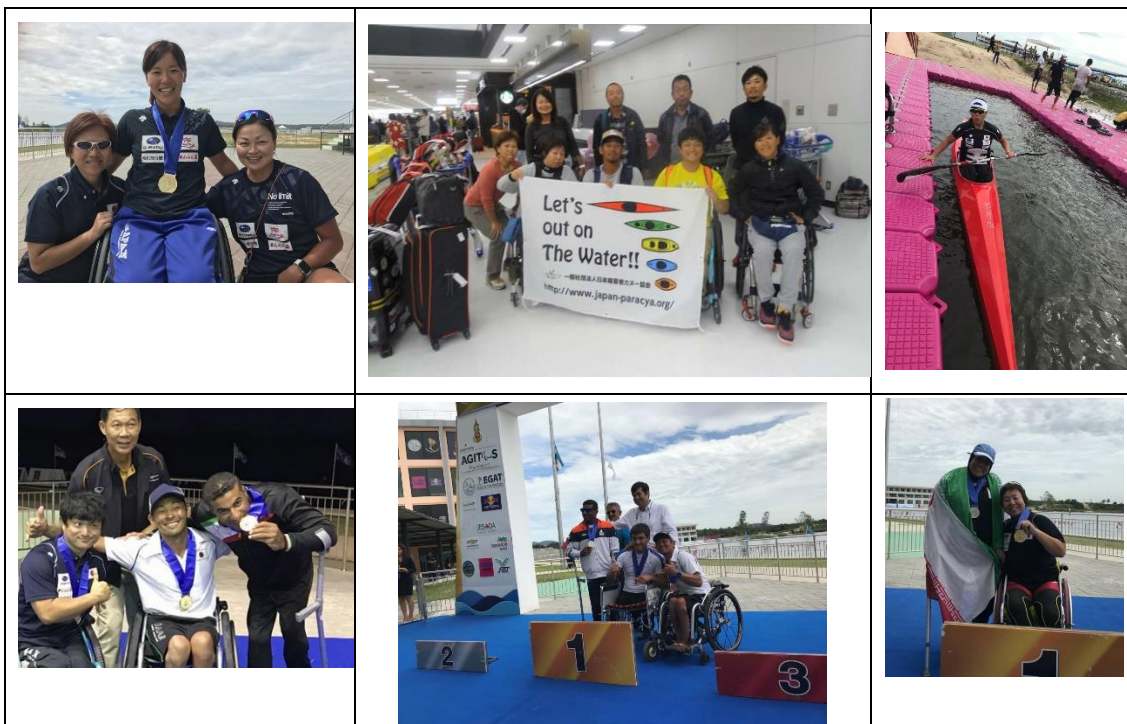
※国庫補助金の助成事業



5月19日～6月6日 ハンガリーセグド・セルビアベオグラード ワールドカップ2
大会連続派遣

8月19日～29日 チェコ ラシエ 世界選手権派遣

11月20日～26日 タイバンコク パラカヌーアジア選手権派遣



国内の大会では、日本カヌー連盟パラ競技運営との連携を行い、日本カヌー連盟主催の年2回の全国大会のpara選手の集計やクラス分けについての役割などは、すべて日本障害者カヌー協会が行う事となりました。

レスキュー役員、クラス分け役員は大会役員として派遣し、チームドクター・チームトレーナー・メカニックを要請して大会環境を整え選手強化に取り組みました。

9月9日～11日 石川県木場潟 日本選手権大会

3月27日～31日 香川県府中湖 海外派遣選考会

【体制整備事業】全17事業

選手の強化と並行して、指導者やスタッフの専門性を高める研修に参加していただき全体のレベルアップと意識の向上に努めました。

トレーナー連絡会議、ドクター連絡会議、クラス分け担当会議、コーチ会議、アンチドーピング研修会、女性アスリートスポーツセミナー、複数領域研修会、医科学研修会、団体内強化会議など。



その他、組織基盤整備の為に研修会ガバナンス研修会や日本パラリンピック委員会加盟団体会議、障がい者スポーツ協議会会議、スポーツ庁との協同コンサルテーションや強化ヒアリングなどの参加を行い、競技部全体の意識の向上と自己研鑽に取り組みました。

強化指定選手に、メディカルチェックやフィットネスチェック、心理調査などを行い選手の心身共にあるべき健康に配慮するとともに、日本におけるパラアスリートの競技力統計にパラカヌーとして協力することが出来ました。パラカヌー競技経験 3 年未満選手には新人アスリート研修会へ参加を要請し、パラアスリートとしての意識の向上に努めました。

【人件費】 予算 8,200,000 円

事務局員 1 名の雇用継続をパラリンピックサポートセンター助成金で、会長が事務兼任として日本スポーツ振興センター助成金で、そのうち 1 名分の助成対象外である団体負担分である社会保険料については会費や寄付から支出しています。

今年度最後の海外派遣選考会国大会には合計 16 名と、選手はどんどん増加しています。そして、この 1 年目標に向かって合宿やトレーニングに取り組んだ成果が大きく表れてきており、選手の記録は全員が縮まり目標タイムを更新しているといっても過言ではありません。

地域でのトレーニング環境も選手が自主的に行動して支援いただく事や、協会会員のつながりで練習の機会を作ることが出来ている選手もいます。様々な形のチャレンジができる環境へのさらなるご支援をお願いします。

東京オリンピックパラリンピック組織委員会との関わりも本格的になってきました。東京 2020 に向けたカヌースプリント会場への視察や、会議などへもパラカヌー中央競技団体として参加して意見を述べる形になってきました。国際カヌー連盟との会議へも参加して、日本のパラカヌー事情を紹介したいと考えています。

最後に、助成事業も 2020 年までと言われ、障がい者スポーツ団体はスポンサーやパートナー契約を結ぶため協賛企業へのアプローチも活発になってきています。当協会も、2020 以降も継続して運営を行うためには、協賛していただける企業へのアプローチも行っていかねばならないことが現実となってきています。

東京 2020 を機に日本では障がい者スポーツに注目が集まっています。単に世界のトップになるという点ではなく、スポーツを通じて共生社会への発展が指針となっています。

全国にカヌーを楽しむ人口を増やしたいという事と、楽しむ人口の増加に伴った世界へのチャレンジへの道筋もどんどん広がってほしいと考えています。可能性はたくさんあり、その可能性にチャレンジできる環境を整備していくことを 2018 年も日本障害者カヌー協会の活動として広げる方針です。